

（1）大学・学科の設置理念

①大学

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

1. 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

4. アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

5. 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

総合理工学部総合理工学科

21世紀の知識基盤社会においては、新たな知の創出と知の活用による更なる科学技術の発展が求められている。総合理工学部総合理工学科は、理学、工学の教育・研究を基盤に、従来の枠組みを超えた分野間の有機的な連携を図り、新たな視点に立った理工融合型の教育・研究を推進する。これにより総合的視野をもった想像力豊かな人材の育成を目指すと共に、新たな科学技術の開拓を通して社会の持続的発展に寄与する。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

本学は、学校教育の担い手である教員の養成分野を、国立大学法人としての目標を具現化する最も重要かつ具体的な人材育成の分野として位置づけている。すなわち、本学の社会的使命を達成し、かつ、自ら掲げた大学像を実現するため、高度な専門的職業としての「教職」に相応しい人材を、本学が有する多様な学術の領域と豊富な研究活動に裏打ちされた教育力を生かして育成したいと考えている。本学は、子どもに対する深い愛情と地域社会と教育の活性化への情熱に溢れる、高度な教育実践力の基礎を備えた教員志望者を組織的かつ恒常的に輩出することを通して、地域社会と学校が求める人材輩出の要請に応えたいと考えているものである。

本学では、こうした観点から、5つの学部（法文学部、教育学部、医学部、総合理工学部、生物資源科学部）に「教職課程」が設置されており、各学校種及び中等教育各教科等の教育職員免許状のいずれかが取得できる体制が整備されている。

教育学部では、学部独自の「1000時間体験学修」、「プロフィールシートシステム」等のプログラムを開発・実施し、継続して教員養成教育の改善に取り組み、確実にその成果を上げているほか、他専門学部では、開放制教員養成の理念である「多様な資質を持った人材の教員への育成」を目指し、各学部にある専門諸科学の教授を基礎とし、高度な科学的知識に裏打ちされ、かつ中等学校教員に相応しい教育実践力を有する人材を組織的に、恒常的に輩出している。

平成19年には、教員養成を全学的教育活動の重要な領域として重視し、全学的な組織として、教育学部に「教師教育研究センター」を開設し、教育学部を中核とする教職課程の全学的、一元的管理・運営組織を構築した。特に「開放制」による教員免許取得希望者の教員免許取得に係る学修活動全般に、責任ある組織と教育内容に基づく高度専門職養成機能を果たしている。さらに、教師教育研究センターでは、「1000時間体験学修」の他学部への一部開放や「履修カルテ」（教職ポートフォリオ）による学修内容理解度の把握、教育学部以外の教職志望学生に対する支援を目的とした「水曜倶楽部」の取組みなど、教育学部での教員養成教育改善の取組みを取り入れ、「深い子ども理解と教職への強い使命感に立脚した優れた教育実践力を有する学校教員の養成」という教育目標、理念のもとに「教職課程」の管理・運営にあたっている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

総合理工学部総合理工学科は、地域に根差し世界に開かれた大学として、豊かな人間性と確かな専門性、さらにはグローバルな視点を身につけ、分野を超えた幅広い視野と高い課題解決能力を持って社会に貢献する人材を育成することを教育・研究の理念とする。

本学部は、理学と工学、及びそれらの融合領域の教育により、総合的視野をもった想像力豊かな人材の育成を推進してきた。令和7年度、科学技術の進歩に対応できる人材、地域社会に貢献できる人材育成のために、7学科体制から1学科体制に一新し、従来の学問分野の枠組みを超えた教育組織に改編する。教員養成においても、本学部本学科の理念・目的に基づく資質を備えながらも、教員としての基礎的素養と教科に関する確固とした知識を身につけた人材育成を行う。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【総合理工学部総合理工学科】

（数学（中学校））

今後ますます複雑化・複合化する社会の中では、身につけた知識や経験を、社会でどのように活かしていくかを自ら考え、能動的に社会や産業のイノベーションに参画しようとする、社会実装に向けた思考力や行動力を身につけた人材の育成が求められる。

本学科の教員養成教育では、数理科学の体系的知識と思考方法、数理科学を他分野に展開していく能力を身につけ、種々の地域課題、社会的課題を解決できる人材を育成することを設置の趣旨とする。

「専門人材教育科目」中の数学に関する講義科目、演習セミナー科目により、数学に関する専門知識・技能・思考力、論理的記述力、実践力、チームワーク力、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を養う。更に、「理工共通基礎科目」中の物理学、化学、地学に関する科目及び「理工社会実装教育科目」中のアントレプレナーシップに関する科目により、広い視野を持ち、中学校の数学教員にふさわしい人材の養成を行う。

（数学（高等学校））

今後ますます複雑化・複合化する社会の中では、身につけた知識や経験を、社会でどのように活かしていくかを自ら考え、能動的に社会や産業のイノベーションに参画しようとする、社会実装に向けた思考力や行動力を身につけた人材の育成が求められる。

本学科の教員養成教育では、数理科学の体系的知識と思考方法、数理科学を他分野に展開していく能力を身につけ、種々の地域課題、社会的課題を解決できる人材を育成することを設置の趣旨とする。

「専門人材教育科目」中の数学に関する講義科目、演習セミナー科目により、数学に関する専門知識・技能・思考力、論理的記述力、実践力、チームワーク力、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を養う。更に、「理工共通基礎科目」中の物理学、化学、地学、情報学等に関する科目及び「理工社会実装教育科目」中のアントレプレナーシップに関する科目により、広い視野を持ち、高等学校の数学教員にふさわしい人材の養成を行う。

（理科（中学校））

現代の科学技術のイノベーションは、様々な専門分野の融合により推進されている。このような時代において、自ら課題を発見し、探求力を発揮して、越境的に未知の課題に挑戦することができる中学校理科の教員を養成することを設置の趣旨とする。

本学科の教員養成教育では、物理学及び化学の基礎から応用までの知識及びフィールドを重視した地質学を基礎とする地球科学の体系を理解する能力と地球史観を有し、種々の物理現象や機能の発現機構の解明、先進材料を用いた電子デバイスの開発、宍道湖などの水系環境研究、環境の負荷低減に関する研究、地域社会における課題の解決、再生可能な資源やエネルギーの有効利用に関する研究、資源開発・地域防災・建設などに携わる人材を育成する。

「専門人材教育科目」中の物理・化学・地学に関する講義科目、実験科目により、理科に関する基礎的専門知識・技能・思考力を修得させる。また、物理、化学、地球科学に関する演習科目、実験科目で、実践力、チームワーク力、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を養う。更に、物理、化学、地球科学の基礎から応用に関する種々の「専門人材教育科目」により、より深い専門知識を修得させる。また、「理工共通基礎科目」中のプログラミング、線形代数学、微

分積分等に関する科目及び「理工社会実装教育科目」中のアントレプレナーシップに関する科目により、広い視野を持ち、中学校の理科教員にふさわしい人材の養成を行う。

（理科（高等学校））

現代の科学技術のイノベーションは、様々な専門分野の融合により推進されている。このような時代において、学んだ専門分野の知識・技能の範囲を超え、自ら課題を発見し、探求力を発揮して、越境的に未知の課題に挑戦することができる高等学校理科の教員を養成することを設置の趣旨とする。

本学科の教員養成教育では、物理学及び化学の基礎から応用までの知識及びフィールドを重視した地質学を基礎とする地球科学の体系を理解する能力と地球史観を有し、種々の物理現象や機能の発現機構の解明、先進材料を用いた電子デバイスの開発、宍道湖などの水系環境研究、環境の負荷低減に関する研究、地域社会における課題の解決、再生可能な資源やエネルギーの有効利用に関する研究、資源開発・地域防災・建設などに携わる人材を育成する。

「専門人材教育科目」中の物理・化学・地学に関する講義科目、実験科目により、理科に関する基礎的専門知識・技能・思考力を修得させる。また、物理、化学、地球科学に関する演習科目、実験科目で、実践力、チームワーク力、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を養う。更に、物理、化学、地球科学の基礎から応用に関する種々の「専門人材教育科目」により、より深い専門知識を修得させる。また、「理工共通基礎科目」中のプログラミング、線形代数学、微分積分等に関する科目及び「理工社会実装教育科目」中のアントレプレナーシップに関する科目により、広い視野を持ち、高等学校の理科教員にふさわしい人材の養成を行う。

（情報（高等学校））

コンピュータのソフトウェア及びハードウェア、情報理論、計算機科学等、専門分野に関する知識を核としながら、同時に自らの課題意識やテーマに照らして、より広範な知見を学ぶことができる高等学校情報の教員を養成することを設置の趣旨とする。

本学科の教員養成教育では、情報学の基礎から応用までの知識を身につけ、データサイエンス、情報セキュリティ、IoTなどの情報技術の活用により、地域、社会的課題の解決や社会からの期待の実現に向けた企画・提案を行うことができる人材を育成する。

「専門人材教育科目」中の情報に関する講義科目、演習科目により、情報に関する専門知識・技能・思考力、実践力、チームワーク力、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を養う。更に、「理工共通基礎科目」中の数学、物理学、化学、地学等に関する科目及び「理工社会実装教育科目」中のアントレプレナーシップに関する科目により、広い視野を持ち、高等学校の情報教員にふさわしい人材の養成を行う。

（工業（高等学校））

半導体・マイクロプロセッサ、ロボット工学等、先端的なものづくり分野で活躍できる基礎的知識や建築学に関する知識を有し、環境保全や災害対応を含めた人類の持続的発展を担う人材の育成に貢献することができる高等学校工業の教員を養成することを設置の趣旨とする。

本学科の教員養成教育では、機械工学、電気電子工学に関する幅広い知識及び建築学における構造・環境・計画・意匠の専門的知識を有し、知能化・高機能化が求められる時代の高度な社会基盤の構築やモノづくり分野、建築、タウンアーキテクトの分野で人や環境にやさしい社会の構築や地域社会に貢献できる人材を育成する。

「専門人材教育科目」中の工業に関する講義科目、実験科目、実習科目により、工業に関する専

門知識・技能・思考力、実践力、チームワーク力、コミュニケーション力及びプレゼンテーション能力を養う。更に、機械工学、電気電子工学、建築学に関する種々の科目の履修により、工学に関する深い専門知識を習得させる。また、「理工共通基礎科目」中のプログラミング、線形代数学、微分積分等に関する科目及び「理工社会実装教育科目」中のアントレプレナーシップに関する科目により、広い視野を持ち、高等学校の工業教員としてふさわしい人材の養成を行う。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教学マネジメント委員会教職課程小委員会
目的：	教職課程の運営、教職指導体制の構築並びに教職課程の自己点検・評価及び改善に関する事項に対応すること
責任者：	教育・学生支援担当副学長
構成員（役職・人数）：	委員長：教育・学生支援担当副学長 1名、教育学部附属教師教育研究センター長 1名、教職課程を有する各学部を担当する教員又は各学部の事務を担当する事務職員代表 各学部につき 1名、教育・学生支援本部大学教育センターを担当する専任教員代表 1名、教育学部附属教師教育研究センターを担当する教員代表 1名 計 9名
運営方法：	教育・学生支援担当副学長を委員長として、教職課程及びカリキュラムの編成・実施、教職課程の自己点検・評価及び改善、教職指導の企画・立案・実施、介護等体験及び教育実習の実施に関する協議を行う。

②

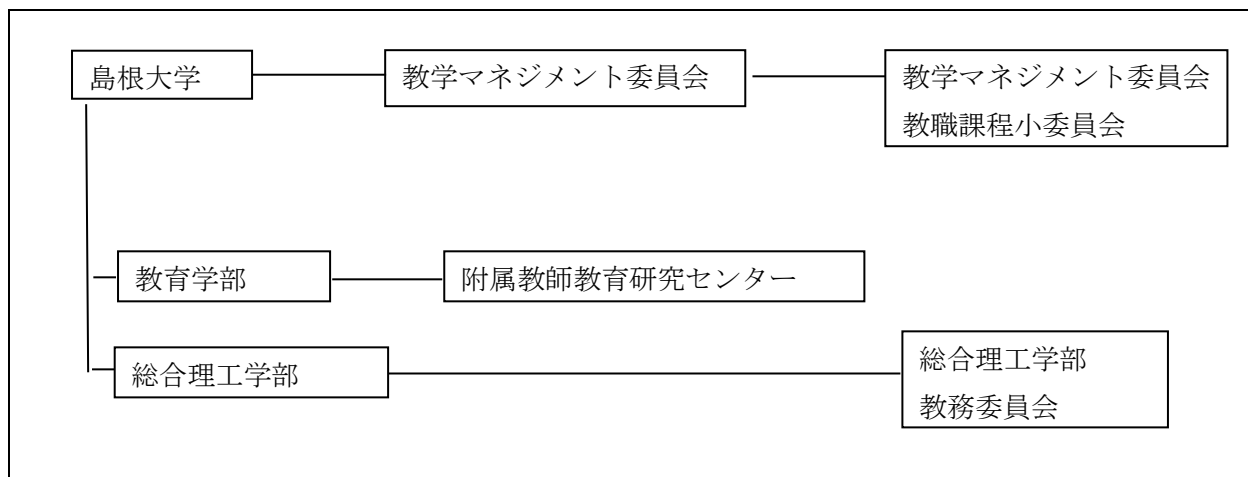
組織名称：	教育学部附属教師教育研究センター
目的：	全学の教職課程科目を担当し、教職科目の改善を図り、教職課程関連カリキュラムを一元的に管理・運営するとともに、現職教員の資質能力向上に寄与すること
責任者：	教師教育研究センター長
構成員（役職・人数）：	センター長 1名、専任教員 4名、職員 3名
運営方法：	運営委員会は年 3～4 回開催 センターに、全学教職課程運営部門・現職教員研修部門・未来の教育人材育成部門・グローバル戦略部門を置き、教職課程の管理・運営、教育実習（教育学部以外の学部）及び介護等体験（全学）の管理・運営、教員免許状取得希望学生の管理と支援、教育課程改善に関する研究、現職教員向け研修の企画・管理・運営等、センターの目的を達成するために必要な業務にあたっている。

③

組織名称：	島根大学総合理工学部教務委員会
目的：	学生の教育に関する事項を審議・実施・自己評価し教育内容等の改善を検討する
責任者：	教務委員会委員長
構成員（役職・人数）：	学部長から指名された専任教員 1名、副学部長（教育・学生支援担当） 1名、専任教員 7名
運営方法：	毎月 1 回開催。 教育課程（教職課程を含む。）、全学共通教育に関することについて審議する。 教育実習履修の承認の可否について、単位修得状況に基づき教師教育研究センターが作成した教育実習履修判定資料により当該委員会で判定を行う。また、教育実習単位認定について、教育実

習受入れ校が総合評価を行った評価表に基づき教師教育研究センターが単位認定資料を作成し、当該委員会で認定を行っている。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

1. 島根県及び鳥取県教育委員会からの人事交流で、教育学部附属教育支援センターへ4名程度の教員派遣があり、学部教員との協力の下、「1000時間体験学修」の主に基礎体験領域についての企画・運営・実施、管理・指導等にあたっている。
2. 島根県教育委員会と「山陰教師教育コンソーシアム」「教員研修に係る情報交換会」、を開催し、教員の実践的・専門的な資質・能力の育成のための教員研修の開発について情報交換をしている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	1000 時間体験学修
連携先との調整方法：	教育学部附属教育支援センターが連絡・調整にあたる。学校へ活動に関する募集を行い、募集のあった活動情報を掲示等で学生に提供する。参加希望学生について、当該学校に通知する。
具体的な内容：	日常の学習支援、学校行事等の支援、クラブ・部活動の指導補助、サタデースクール事業への参加、放課後学習チューター、学校独自の活動への支援、学校図書室運営アシスタントなど

Ⅲ. 教職指導の状況

学務課教務担当において学修全般の履修指導等の中で、教職課程のガイダンス及び履修指導等を行う。教育学部と医学部（看護学科）を除く3学部の教職課程科目の管理や履修指導、教育実習や介護等体験活動の実施及びそれらに関する各種の相談については学務課担当とも連携しながら、また実務家特任教員の協力を得ながら教育学部附属教師教育研究センターで対応している。

様式第7号ウ

＜総合理工学部 総合理工学科＞（認定課程：中学校教諭 数学）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職についての素地を身につける。教職に関する科目では、教職の意義や歴史、高度専門職としての教員の資質能力、中等教育教員の職務と身分保障、教員養成・教師教育に係わる政策や改革動向等に関する基本的な事項を理解する。
	後期	1年次前期の学びを踏まえ、教職についての素地を身につける。
2年次	前期	2年次前期では、学習指導要領(数学)についての歴史や内容、数学教育の基本的な指導法と今日的課題等について理解する。また、子どもの発達や生徒理解、思春期の今日の特徴、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、心理学の観点から理解する。さらに、生徒・進路指導に関する基礎的な知識を得る。加えて、数学についての講義科目により、数学に関する基礎的かつ包括的な知識を身につける。
	後期	2年次後期では、中学校の数学における数学的思考方や見方の育成に向け、生徒の学習実態を踏まえた指導法についてより実践的・省察的に理解する。また、中等教育の理念・教育史・思想、教育課程の意義と社会的役割を理解し、広く教育をめぐる時事問題に関心を持ち、自分なりの意見を持てるようにすると同時に、子どもの発達や生徒理解、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、社会学の観点から理解する。さらに、教育における方法・技術の意義を理解し、教材研究や授業構想等の基盤を養うとともに、情報機器および教材の活用の仕方及び情報リテラシーの基礎を身につける。加えて、2年次前期に引き続き、数学についての種々の講義科目により、数学に関する基礎的かつ包括的な知識を身につけるとともに、演習セミナー科目により、数学に関する実践的能力を修得する。
3年次	前期	3年次前期では、数学科教育に関する既習事項を再確認しながら、数学的認識や数学的思考能力を評価・指導する能力、数学教材を分析する能力、授業構想力と展開していく能力を身につける。また、道德教育に関する理論、歴史、制度、子どもの発達段階、学習指導要領などを理解する。さらに、特別活動の学校教育における位置・役割、子どもの成長における特別活動の意義、特別活動における指導の視点、指導法を理解する。加えて、数学についての種々の講義科目により、数学に関するより高度な知識を身につける。
	後期	3年次後期では、数学科教育に関する既習事項を再確認しながら、数学教育の目標・方法・内容・評価のあり方、生徒の学習の習得・深化のための指導法について、授業実践研究により理解する。また、学校教育への心理学的支援、心理臨床的分析力・表現力、カウンセリングマインドの基礎を習得する。さらに、数学についての種々の講義科目により、数学に関するより高度な知識を身につける。
4年次	前期	教育実習の意義や心構え、教育実習の内容の概略を理解し、大学で習得した知識・技能等を生かして授業を行い、授業指導の難しさと楽しさ、教材研究の重要性を実感するとともに、生徒への支援・指導の在り方や臨機応変な応答関係に関して、より実践的な力量の形成を図る。また、教育実習を通して体験した学校や授業、教師や子どもたちの現状と教育課題を振り返ると同時に教員となるにあたっての適性と自己課題を認識する。
	後期	最後に、教職課程を総括して、教師としての使命感や責任感、教育的愛情について理解する。また、社会性を備え、対人関係を良好に構築する能力、生徒理解や学級経営等の知識・技能、数学教育の教科指導力、保護者との円滑な対応力など、教員として最小限必要な資質能力の形成を確認し、自己課題の自覚とその改善のための取組みについて明確にする。

様式第7号ウ

<総合理工学部 総合理工学科> (認定課程: 高等学校教諭 数学)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職についての素地を身につける。教職に関する科目では、教職の意義や歴史、高度専門職としての教員の資質能力、中等教育教員の職務と身分保障、教員養成・教師教育に係わる政策や改革動向等に関しての基本的な事項を理解する。
	後期	1年次前期の学びを踏まえ、教職についての素地を身につける。
2年次	前期	2年次前期では、学習指導要領(数学)についての歴史や内容、数学教育の基本的な指導法と今日的課題等について理解する。また、子どもの発達や生徒理解、思春期の今日の特徴、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、心理学の観点から理解する。さらに、生徒・進路指導に関する基礎的な知識を得る。加えて、数学についての講義科目により、数学に関する基礎的かつ包括的な知識を身につける。
	後期	2年次後期では、高等学校の数学における数学的な考え方や見方の育成に向けて、生徒の学習実態を踏まえた指導法をより実践的・省察的に理解する。また、中等教育の理念・教育史・思想、教育課程の意義と社会的役割を理解し、広く教育をめぐる時事問題に関心を持ち、自分なりの意見を持てるようにすると同時に、子どもの発達や生徒理解、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、社会学の観点から理解する。さらに、教育における方法・技術の意義を理解し、教材研究や授業構想等の基盤を養うとともに、情報機器および教材の活用の仕方及び情報リテラシーの基礎を身につける。加えて、2年次前期に引き続き、数学についての種々の講義科目により、数学に関する基礎的かつ包括的な知識を身につけるとともに、演習セミナー科目により、数学に関する実践的能力を修得する。
3年次	前期	3年次前期では、数学科教育の既習事項を再確認しながら、数学的な認識力や思考能力を評価・指導する能力、数学教材を分析する能力、授業構想力と展開していく能力を身につける。また、特別活動の学校教育における位置・役割、子どもの成長における特別活動の意義、特別活動における指導の視点、指導法を理解する。さらに、数学についての種々の講義科目により、数学に関するより高度な知識を身につける。
	後期	3年次後期では、数学科教育に関する既習事項を再確認しながら、数学教育の目標・方法・内容・評価のあり方、生徒の学習の習得・深化のための指導法について、授業実践研究により理解する。また、学校教育への心理学的支援、心理臨床的分析力・表現力、カウンセリングマインドの基礎を習得する。さらに、数学についての種々の講義科目により、数学に関するより高度な知識を身につける。
4年次	前期	教育実習の意義や心構え、教育実習の内容の概略を理解し、大学で習得した知識・技能等を生かして授業を行い、授業指導の難しさと楽しさ、教材研究の重要性を実感するとともに、生徒への支援・指導の在り方や臨機応変な応答関係に関して、より実践的な力量の形成を図る。また、教育実習を通して体験した学校や授業、教師や子どもたちの現状と教育課題を振り返ると同時に教員となるにあたっての適性と自己課題を認識する。
	後期	最後に、教職課程を総括して、教師としての使命感や責任感、教育的愛情について理解する。また、社会性を備え、対人関係を良好に構築する能力、生徒理解や学級経営等の知識・技能、数学教育の教科指導力、保護者との円滑な対応力など、教員として最小限必要な資質能力の形成を確認し、自己課題の自覚とその改善のための取組みについて明確にする。

様式第7号ウ

＜総合理工学部 総合理工学科＞（認定課程：中学校教諭 理科）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職についての素地を身につける。教職に関する科目では、教職の意義や歴史、高度専門職としての教員の資質能力、中等教育教員の職務と身分保障、教員養成・教師教育に係わる政策や改革動向等に関しての基本的な事項を理解する。
	後期	1年次前期の学びを踏まえ、教職についての素地を身につける。
2年次	前期	2年次前期では、学習指導要領(理科)についての歴史や内容、理科教育の基本的な指導法と今日的課題等について理解する。また、子どもの発達や生徒理解、思春期の今日の特徴、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、心理学の観点から理解する。さらに、生徒・進路指導に関する基礎的な知識を得る。加えて、理科の各分野に関する一般的包括的な内容を含む科目により、それぞれの分野の基礎的かつ包括的な知識を身につける。
	後期	2年次後期では、中学校の理科における自然科学的な考え方や見方の育成に向け、生徒の学習実態を踏まえた指導法についてより実践的・省察的に理解する。また、中等教育の理念・教育史・思想、教育課程の意義と社会的役割を理解し、広く教育をめぐる時事問題に関心を持ち、自分なりの意見を持てるようにすると同時に、子どもの発達や生徒理解、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、社会学の観点から理解する。さらに、教育における方法・技術の意義を理解し、教材研究や授業構想等の基盤を養うとともに、情報機器および教材の活用の仕方及び情報リテラシーの基礎を身につける。加えて、理科の各分野に関する一般的包括的な内容を含む科目により、それぞれの分野の基礎的かつ包括的な知識を身につけるとともに、理科に関する種々の講義科目、実験科目により理科に関するより高度な知識を修得する。
3年次	前期	3年次前期では、中等理科教育に関する既習事項を再確認しながら、自然認識や科学的思考能力を評価・指導する能力、理科教材を分析する能力、授業構想力と展開していく能力を身につける。また、道徳教育に関する理論、歴史、制度、子どもの発達段階、学習指導要領などを理解する。さらに、特別活動の学校教育における位置・役割、子どもの成長における特別活動の意義、特別活動における指導の視点、指導法を理解する。加えて、理科についての種々の講義科目により、理科に関するより高度な知識を身につけるとともに、理科に関する実験・実習科目により、理科についての実践的知識を修得する。
	後期	3年次後期では、中等理科教育に関する既習事項を再確認しながら、理科教育の目標・方法・内容・評価のあり方、生徒の学習の習得・深化のための指導法について、授業実践研究により理解する。また、学校教育への心理学的支援、心理臨床的分析力・表現力、カウンセリングマインドの基礎を習得する。さらに、理科に関する種々の講義科目により、理科に関するより高度な知識を身につけるとともに、理科に関する実験・実習科目により、理科についてのより進んだ実践的知識を修得する。
4年次	前期	教育実習の意義や心構え、教育実習の内容の概略を理解し、大学で習得した知識・技能等を生かして授業を行い、授業指導の難しさと楽しさ、教材研究の重要性を実感するとともに、生徒への支援・指導の在り方や臨機応変な応答関係に関して、より実践的な力量の形成を図る。また、教育実習を通して体験した学校や授業、教師や子どもたちの現状と教育課題を振り返ると同時に教員となるにあたっての適性と自己課題を認識する。
	後期	最後に、教職課程を総括して、教師としての使命感や責任感、教育的愛情について理解する。また、社会性を備え、対人関係を良好に構築する能力、生徒理解や学級経営等の知識・技能、理科教育の教科指導力、保護者との円滑な対応力など、教員として最小限必要な資質能力の形成を確認し、自己課題の自覚とその改善のための取組みについて明確にする。

様式第7号ウ

＜総合理工学部 総合理工学科＞（認定課程：高等学校教諭 理科）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職についての素地を身につける。教職に関する科目では、教職の意義や歴史、高度専門職としての教員の資質能力、中等教育教員の職務と身分保障、教員養成・教師教育に係わる政策や改革動向等に関する基本的な事項を理解する。
	後期	1年次前期の学びを踏まえ、教職についての素地を身につける。
2年次	前期	2年次前期では、学習指導要領(理科)についての歴史や内容、理科教育の基本的な指導法と今日的課題等について理解する。また、子どもの発達や生徒理解、思春期の今日の特徴、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、心理学の観点から理解する。さらに、生徒・進路指導に関する基礎的な知識を得る。加えて、理科の各分野に関する一般的包括的な内容を含む科目により、それぞれの分野の基礎的かつ包括的な知識を身につける。
	後期	2年次後期では、高等学校の理科における自然科学的な考え方や見方の育成に向けて、生徒の学習実態を踏まえた指導法をより実践的・省察的に理解する。また、中等教育の理念・教育史・思想、教育課程の意義と社会的役割を理解し、広く教育をめぐる時事問題に関心を持ち、自分なりの意見を持てるようにすると同時に、子どもの発達や生徒理解、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、社会学の観点から理解する。さらに、教育における方法・技術の意義を理解し、教材研究や授業構想等の基盤を養うとともに、情報機器および教材の活用の仕方及び情報リテラシーの基礎を身につける。加えて、理科の各分野に関する一般的包括的な内容を含む科目により、それぞれの分野の基礎的かつ包括的な知識を身につけるとともに、理科に関する種々の講義科目、実験科目により理科に関するより高度な知識を修得する。
3年次	前期	3年次前期では、中等理科教育に関する既習事項を再確認しながら、自然認識や科学的思考能力を評価・指導する能力、理科教材を分析する能力、授業構想力と展開していく能力を身につける。また、特別活動の学校教育における位置・役割、子どもの成長における特別活動の意義、特別活動における指導の視点、指導法を理解する。さらに、理科についての種々の講義科目により、理科に関するより高度な知識を身につけるとともに、理科に関する実験・実習科目により、理科についての実践的知識を修得する。
	後期	3年次後期では、中等理科教育に関する既習事項を再確認しながら、理科教育の目標・方法・内容・評価のあり方、生徒の学習の習得・深化のための指導法について、授業実践研究により理解する。また、学校教育への心理学的支援、心理臨床的分析力・表現力、カウンセリングマインドの基礎を習得する。さらに、理科に関する種々の講義科目により、理科に関するより高度な知識を身につけるとともに、理科に関する実験・実習科目により、理科についてのより進んだ実践的知識を修得する。
4年次	前期	教育実習の意義や心構え、教育実習の内容の概略を理解し、大学で習得した知識・技能等を生かして授業を行い、授業指導の難しさや楽しさ、教材研究の重要性を実感するとともに、生徒への支援・指導の在り方や臨機応変な応答関係に関して、より実践的な力量の形成を図る。また、教育実習を通して体験した学校や授業、教師や子どもたちの現状と教育課題を振り返ると同時に教員となるにあたっての適性と自己課題を認識する。
	後期	最後に、教職課程を総括して、教師としての使命感や責任感、教育的愛情について理解する。また、社会性を備え、対人関係を良好に構築する能力、生徒理解や学級経営等の知識・技能、理科教育の教科指導力、保護者との円滑な対応力など、教員として最小限必要な資質能力の形成を確認し、自己課題の自覚とその改善のための取組みについて明確にする。

様式第7号ウ

＜総合理工学部 総合理工学科＞（認定課程：高等学校教諭 情報）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職についての素地を身につける。教職に関する科目では、教職の意義や歴史、高度専門職としての教員の資質能力、中等教育教員の職務と身分保障、教員養成・教師教育に係わる政策や改革動向等に関する基本的な事項を理解する。
	後期	1年次前期の学びを踏まえ、教職についての素地を身につける。
2年次	前期	2年次前期では、学習指導要領(情報)についての歴史や内容、情報教育の基本的な指導法と今日的課題等について理解する。また、子どもの発達や生徒理解、思春期の今日の特徴、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、心理学の観点から理解する。さらに、生徒・進路指導に関する基礎的な知識を得る。加えて、情報についての講義科目・実習科目により、情報分野の基礎的かつ包括的な知識を身につける。
	後期	2年次後期では、高等学校における情報に関する能力の育成に向けて、生徒の学習実態を踏まえた指導法をより実践的・省察的に理解する。また、中等教育の理念・教育史・思想、教育課程の意義と社会的役割を理解し、広く教育をめぐる時事問題に関心を持ち、自分なりの意見を持てるようにすると同時に、子どもの発達や生徒理解、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、社会学の観点から理解する。さらに、教育における方法・技術の意義を理解し、教材研究や授業構想等の基盤を養うとともに、情報機器および教材の活用の仕方及び情報リテラシーの基礎を身につける。加えて、情報についての種々の講義科目により、情報分野の高度な知識を身につける。
3年次	前期	3年次前期では、情報科教育に関する既習事項を再確認しながら、情報における認識力や思考能力を評価・指導する能力、情報教材を分析する能力、授業構想力と展開していく能力を身につける。また、特別活動の学校教育における位置・役割、子どもの成長における特別活動の意義、特別活動における指導の視点、指導法を理解する。さらに、情報についての種々の講義科目により、情報分野のより高度な知識を身につけるとともに、演習科目により、情報に関する実践的能力を修得する。
	後期	3年次後期では、学校教育への心理学的支援、心理臨床的分析力・表現力、カウンセリングマインドの基礎を習得する。また、情報分野の種々の講義科目により、情報分野のより高度な知識を身につける。
4年次	前期	教育実習の意義や心構え、教育実習の内容の概略を理解し、大学で習得した知識・技能等を生かして授業を行い、授業指導の難しさと楽しさ、教材研究の重要性を実感するとともに、生徒への支援・指導の在り方や臨機応変な応答関係に関して、より実践的な力量の形成を図る。また、教育実習を通して体験した学校や授業、教師や子どもたちの現状と教育課題を振り返ると同時に教員となるにあたっての適性と自己課題を認識する。
	後期	最後に、教職課程を総括して、教師としての使命感や責任感、教育的愛情について理解する。また、社会性を備え、対人関係を良好に構築する能力、生徒理解や学級経営等の知識・技能、情報教育の教科指導力、保護者との円滑な対応力など、教員として最小限必要な資質能力の形成を確認し、自己課題の自覚とその改善のための取組みについて明確にする。

様式第7号ウ

＜総合理工学部 総合理工学科＞（認定課程：高等学校教諭 工業）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職についての素地を身につける。教職に関する科目では、教職の意義や歴史、高度専門職としての教員の資質能力、中等教育教員の職務と身分保障、教員養成・教師教育に係わる政策や改革動向等に関する基本的な事項を理解する。
	後期	1年次前期の学びを踏まえ、教職についての素地を身につける。
2年次	前期	2年次前期では、学習指導要領（工業）についての歴史や内容、工業教育の基本的な指導法と今日的課題等について理解する。また、子どもの発達や生徒理解、思春期の今日の特徴、生徒の社会集団・学級集団、学校と社会の関係等について、心理学の観点から理解する。さらに、生徒・進路指導に関する基礎的な知識を得る。加えて、工業についての講義科目・実習科目により、工業の基礎的かつ包括的な知識を身につける。
	後期	2年次後期では、高等学校における工業教育に関する能力の育成に向けて、工業教材を分析する能力、授業構想力と展開していく能力を身につけ、生徒の学習実態を踏まえた指導法をより実践的・省察的に理解し進めていくことのできる力を育成する。また、中等教育の理念・教育史・思想、教育課程の意義と社会的役割を理解し、広く教育をめぐる時事問題に関心を持ち、自分なりの意見を持てるようにする。さらに、教育における方法・技術の意義を理解し、教材研究や授業構想等の基盤を養うとともに、情報機器および教材の活用の仕方及び情報リテラシーの基礎を身につける。加えて、工業についての種々の講義科目により、工業の高度な知識を身につける。
3年次	前期	3年次前期では、特別活動の学校教育における位置・役割、子どもの成長における特別活動の意義、特別活動における指導の視点、指導法を理解する。また、工業についての種々の講義科目により、工業のより高度な知識を身につけるとともに、実験・実習科目により、工業に関する実践的能力を修得する。
	後期	3年次後期では、学校教育への心理学的支援、心理臨床的分析力・表現力、カウンセリングマインドの基礎を習得する。また、工業分野の種々の講義科目により、工業のより高度な知識を身につけるとともに、実験・実習科目により、工業に関する実践的能力を修得する。
4年次	前期	教育実習の意義や心構え、教育実習の内容の概略を理解し、大学で習得した知識・技能等を生かして授業を行い、授業指導の難しさと楽しさ、教材研究の重要性を実感するとともに、生徒への支援・指導の在り方や臨機応変な応答関係に関して、より実践的な力量の形成を図る。また、教育実習を通して体験した学校や授業、教師や子どもたちの現状と教育課題を振り返ると同時に教員となるにあたっての適性と自己課題を認識する。
	後期	最後に、教職課程を総括して、教師としての使命感や責任感、教育的愛情について理解する。また、社会性を備え、対人関係を良好に構築する能力、生徒理解や学級経営等の知識・技能、工業教育の教科指導力、保護者との円滑な対応力など、教員として最小限必要な資質能力の形成を確認し、自己課題の自覚とその改善のための取組みについて明確にする。

様式第7号ウ（教諭）

＜総合理工学部総合理工学科＞（認定課程：中学校教諭 数学）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論			日本国憲法	データサイエンスのための微積分Ⅰ
					健康スポーツ	データサイエンスのための線形代数Ⅰ
					情報科学	
	後期				英語ⅠB	
					英語ⅡA	
					基礎プログラミング	
2年次	前期	学校教育心理学概説	線形代数学Ⅰ			基幹数理概論
		生徒・進路指導論	基礎解析学Ⅰ			社会実装セミナーⅡ（デザインと数学）
		教育課程論	数学要論Ⅰ			
		数学科教育法概説	基礎解析学演習セミナーⅠ			
	後期	教育原論Ⅱ	基礎解析学Ⅱ			数理科学基礎セミナー
		教育社会学概説	線形代数学Ⅱ			展開数理概論
		教育の方法および技術（情報通信技術の活用を含む）	基礎解析学演習セミナーⅡ			
		数学科教育法特講Ⅰ	アルゴリズム基礎			
3年次	前期	道徳教育指導論	幾何学Ⅰ			数理科学発展セミナー
		特別活動指導論	数理統計学Ⅰ			
		特別支援教育	モデリングの数理Ⅰ			
		総合的な学習の時間				
		数学科教育法特講Ⅱ				
	後期	教育相談の理論と方法	解析学Ⅱ			
		数学科教育法特講Ⅲ	数理統計学Ⅱ			
			モデリングの数理Ⅱ			
4年次	前期					
	後期					
	通年	事前及び事後の指導				
		教育実習Ⅰ				
		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ（教諭）

＜総合理工学部総合理工学科＞（認定課程：高等学校教諭 数学）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論			日本国憲法	データサイエンスのための微積分Ⅰ
					健康スポーツ	データサイエンスのための線形代数Ⅰ
					情報科学	
	後期				英語ⅠB	データサイエンスのための微積分Ⅱ
					英語ⅡA	データサイエンスのための線形代数Ⅱ
					基礎プログラミング	
2年次	前期	学校教育心理学概説	線形代数学Ⅰ			基幹数理概論
		生徒・進路指導論	基礎解析学Ⅰ			社会実装セミナーⅡ（デザインと数学）
		教育課程論	線形代数学演習セミナーⅠ			
		数学科教育法概説	基礎解析学演習セミナーⅠ			
	後期	教育原論Ⅱ	線形代数学Ⅱ			数理科学基礎セミナー
		教育社会学概説	数学要論Ⅱ			展開数理概論
		教育の方法および技術（情報通信技術の活用を含む）	線形代数学演習セミナーⅡ			
			基礎解析学演習セミナーⅡ			
			アルゴリズム基礎			
			ITスペシャリストのための確率統計			
3年次	前期	特別活動指導論	幾何学Ⅰ			数理科学発展セミナー
		特別支援教育	数理統計学Ⅰ			
		総合的な学習の時間	モデリングの数理Ⅰ			
			解析学Ⅰ			
	後期	教育相談の理論と方法	解析学Ⅱ			
		数学科教育法特講Ⅲ	位相数学Ⅱ			
			離散数学			
4年次	前期					
	後期					
	通年	事前及び事後の指導				
		教育実習Ⅱ				
		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ（教諭）

＜総合理工学部総合理工学科＞（認定課程：中学校教諭 理科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	基礎地学		日本国憲法	
					健康スポーツ	
					情報科学	
	後期				英語ⅠB	
					英語ⅡA	
					基礎プログラミング	
2年次	前期	学校教育心理学概説	物理学序論			半導体工学基礎
		生徒・進路指導論	基礎化学			物質工学Ⅰ
		教育課程論	物理学実験ⅠA			地球科学基礎演習
		中等理科教育法概説	地層学演習			
	後期	教育原論Ⅱ	生物学			地球情報解析学
		教育社会学概説	地球史学			電子工学概論
		教育の方法および技術（情報通信技術の活用を含む）	物理学実験ⅠB			
		中等理科教育法特講Ⅰ	地学通論			
3年次	前期	道徳教育指導論	地学実験			地球科学フィールド基礎演習
		特別活動指導論	量子力学Ⅰ			先端環境物質科学
		特別支援教育	基礎化学実験			地球化学
		総合的な学習の時間	鉱物科学			
		中等理科教育法特講Ⅱ	量子化学			
	後期	教育相談の理論と方法	生物無機化学			無機機能材料
		中等理科教育法特講Ⅲ	生物学実験			物質工学Ⅲ
			量子力学Ⅱ			
4年次	前期					
	後期					
	通年	事前及び事後の指導				
		教育実習Ⅰ				
		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ（教諭）

＜総合理工学部総合理工学科＞（認定課程：高等学校教諭 理科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論	基礎地学		日本国憲法	
					健康スポーツ	
					情報科学	
	後期		基礎物理学		英語ⅠB	
					英語ⅡA	
					基礎プログラミング	
2年次	前期	学校教育心理学概説	物理学序論			力学セミナー
		生徒・進路指導論	基礎化学			グローバルテクノクス
		教育課程論	物理学実験ⅠA			
		中等理科教育法概説	物理化学Ⅰ			
	後期	教育原論Ⅱ	生物学			半導体工学Ⅰ
		教育社会学概説	地球史学			地球情報解析学
		教育の方法および技術（情報通信技術の活用を含む）	物理学実験ⅠB			地質図学演習
			物理化学Ⅱ			
			岩石学実習			
3年次	前期	特別活動指導論	地学通論			無機工業化学
		特別支援教育	地学実験			半導体工学Ⅱ
		総合的な学習の時間	量子力学Ⅰ			
		中等理科教育法特講Ⅱ	固体物理学Ⅰ			
	後期	教育相談の理論と方法	生物無機化学			応用電子工学
			生物学実験			地球科学セミナー
			固体物理学Ⅱ			環境地質学実験
4年次	前期					
	後期					
	通年	事前及び事後の指導				
		教育実習Ⅱ				
		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ（教諭）

＜総合理工学部総合理工学科＞（認定課程：高等学校教諭 情報）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論			日本国憲法	データサイエンスのための微積分Ⅰ
					健康スポーツ	データサイエンスのための線形代数Ⅰ
					情報科学	
	後期				英語ⅠB	データサイエンスのための微積分Ⅱ
					英語ⅡA	データサイエンスのための線形代数Ⅱ
					基礎プログラミング	
2年次	前期	学校教育心理学概説	情報と職業			情報技術特論
		生徒・進路指導論	ソフトウェア工学			数値計算法
		教育課程論	アルゴリズム基礎			アドバンスド・インフォマティクス・セミナーⅠ
			システム創成プロジェクトⅠ			
	後期	教育原論Ⅱ	情報と社会・倫理			ITスペシャリストのための離散数学
		教育社会学概説	システム創成プロジェクトⅠ			情報技術特論
		教育の方法および技術（情報通信技術の活用を含む）				
		情報科教育法概説				
3年次	前期	特別活動指導論	計算機アーキテクチャ			アドバンスド・インフォマティクス・セミナーⅡ
		特別支援教育	コンピュータネットワーク			
		総合的な学習の時間	コンピュータセキュリティ			
		情報科教育法特講Ⅰ	オペレーションズリサーチⅠ			
			システム創成プロジェクトⅡ			
	後期	教育相談の理論と方法	マルチメディア工学			
			ヒューマン・コンピュータ・インタラクション			
			オペレーションズリサーチⅡ			
4年次	前期					
	後期					
	通年	事前及び事後の指導				
		教育実習Ⅱ				
		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ（教諭）

＜総合理工学部総合理工学科＞（認定課程：高等学校教諭 工業）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論			日本国憲法	
					健康スポーツ	
					情報科学	
	後期				英語ⅠB	
					英語ⅡA	
					基礎プログラミング	
2年次	前期	学校教育心理学概説	制御工学Ⅰ			機械電気電子基礎演習
		生徒・進路指導論	機械製図			しまね建築学
		教育課程論	建築構造基礎			
		工業科教育法概説	建築計画学			
	後期	教育原論Ⅱ	工業概論			工学のための電磁気学
		教育社会学概説	制御工学Ⅱ			
		教育の方法および技術 (情報通信技術の活用を含む)	繊維材料工学			
			現代建築論			
3年次	前期	特別活動指導論	職業指導概説Ⅰ			木造建築と木材
		特別支援教育	都市計画論			触媒化学
		総合的な学習の時間	環境材料工学			無機工業化学
		工業科教育法特講	西洋建築史			
			景観論			
	後期	教育相談の理論と方法	機械要素			電気エネルギー変換工学
			ロボット工学			有機工業化学
			風土と住まい			建築設備学Ⅱ
4年次	前期					
	後期					
	通年	事前及び事後の指導				
		教育実習Ⅱ				
		教職実践演習(中・高)				